

第五章 東部兩方地域

第一節 位置及区域

本章に取扱ふ地域は概ね東経一二八度乃至一三一度、北緯四二度乃至四五度の間に包含せられ、間島省、牡丹江省の一部、北鮮三港地区及吉林省東部を含む区域である。

本地域はソ、中、鮮三国が各々相互に其の國境を接し、雄基、羅津、清津等一連の不凍港を擁する北滿唯一の海陸の接続点であり、従つて又北太平洋日本海方面から歐ソに行く最近至便な陸上交通の正面玄関地域でもある。東はソ聯が其の東方経略の為海、陸、空の據点とする瀋陽を含む南滿ウスリ、平地に接し、南は北鮮共產匪が数十年に亘り其の根據地とした嶮峻な白頭山塊によつて朝鮮に連り、北は松花、黒龍兩江下流の大濕地帯に、西は北滿中露の太平洋原に接する半円形台状の一大局地である。

第三節 戰略的觀察

第一款 本地域の戰略的價值及特性

本地域の戰略的價值は左の七つに要約出来る

- 一 南は嶮峻不遘な白頭山大山塊、北は凍結季の外地上交通を殆んど許さない三江大濕地の間に介在する唯一の乾燥高原地域である為東方から北滿及歐ソへ通ずる主要陸路交通線の通路及其の出入口である
- 二 鏡泊湖を中心とした半徑約一八〇浬の一大局地であつて其の内部には地上戰略兵團の運用を許す地積と空軍基地として可能な平地及陸上交通網を保有し独立した自然的要害で一大戰略據点たり得る
- 三 ソ聯は本地域を保有すること依つてアムール、ザバイカル方面に後退していた空軍基地を東方に推進し東方に対する空軍の活動を延伸擴大することが出来ると同時に南鄙ウスリ、其の他の隣接地域と相俟つて一連の飛行場群を成形して航空軍の機動的運用を便する

堅固の施設せられた浦鹽軍港の冬季結氷の不利を補い得る一連の不
 凍港雄基、羅津、清津などとタイアツプして廣域に分散した海軍の
 一大策源となり且相互間の防衛強化にも役立つ
 五ノ軍が根據地として頼む岸部ウスリ、東寧地域、アムール江中下流
 の礦工業地域及綏東ソ軍の食糧一穀肉一供給地たる北滿を確保する
 為戰略的側衛及前衛地域であり本地域を失えば重要な前記の地域
 は陸上よりの直接脅威に暴されることとなる
 六西北進する攻者の兵団が平壤方面から臨瀛へ進攻する場合に其の右
 側背を脅威する戰略的側面陣地の役割を演じ得る
 七攻者の本地域を渡せば滿洲大平野及ウスリ、方面に松花江下流地
 域へ作戦的発展する堅固なる足場を興えることとなる
 上記の戰略價値の外に政略的に見て本地域はソ、中、鮮三國が直接具
 体的に握手連絡しているものであるから本地域を失えば三國間の結節点
 の大なるクサビを打ち込まれたこととなる従つて防者は本地域に對し

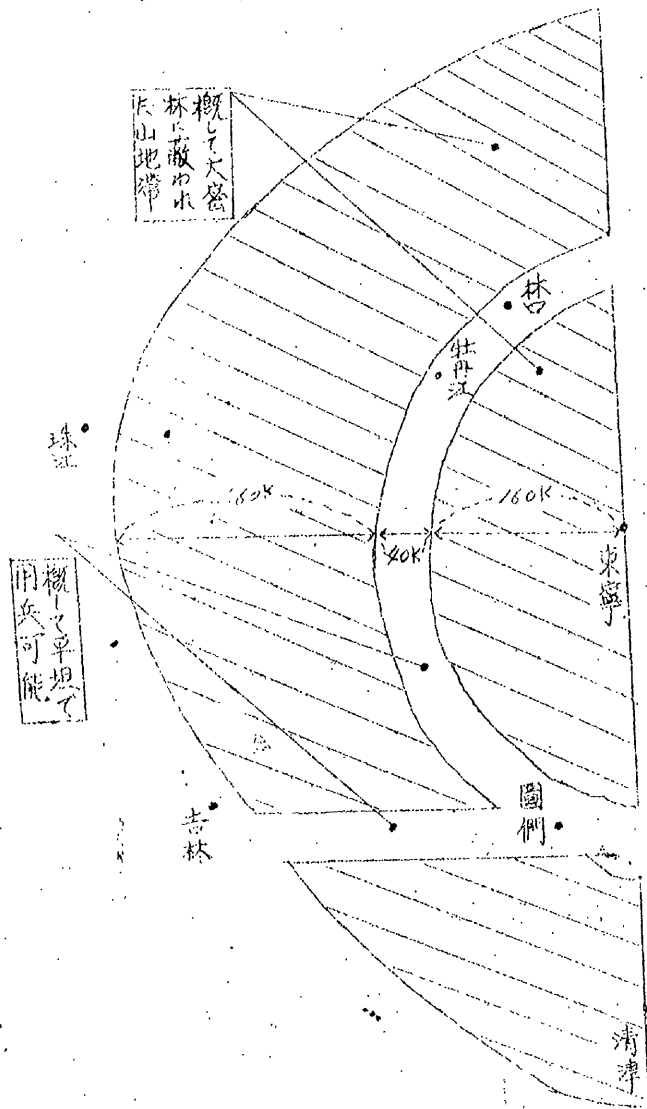
ては特に緊密な協同作戰方策を講じ極力本地域の確保を圖るであらう
 し若し一時状況不利にして攻者の上陸せられた場合於てもその占領
 地擴大を防止し出来得れば之を再び日本海へ遷退するか棄滅すること
 を圖るであらう

故に防者の本地域に対する作戰指導は極めて大膽、強靱且執拗彈力的
 の行はれ堅固な平時からの施設や思想的指導をも遺憾なく活用するて
 ありしを其の海岸及旧牡丹江省、間島省内の局地障礙を利用した
 持久戦—ゲリラ戦を含む—の指導については攻者の行動が地形的に限
 定せられる關係上最も威力を発揮し得る如く平時から十分な準備を予
 め講じて置くてあらう

一註—本地域の戦略的地形構成を概観すれば左圖の如く半円形を密
 林山地に挟まれた戦略的谷地と云ふことも出来る

東部(南方)地域構成概観圖

従つて攻者は本地域への上陸作戦に奇襲上陸を期待することは殆んど不可能で浦鹽艦隊の活動を封じた後強大なる空海軍の砲撃威力を伴ふ強行上陸を必要とするであろう若し北鮮方面の陸上から逐次に進歩を進めつつ本地域方面に作戦を指向しようとする場合は北鮮地形の持



久の長隘路に鑑み寧ろ初めから断念した方が賢明ではあるまいか但し
 北鮮地域が事前の攻者側との協同關係にある場合は格別である
 本地域に於ける防者の企圖を挫折せしむる為攻者は上陸初期から一舉
 迅速に本地域を突破攻略するに足るだけの兵力、編成、裝備を當該作
 戦に充當し置くことが緊要である斯くすることによつて本地域附近
 で共産軍の有力兵団を捕捉撃滅する機会をも併せ捉え得るであらうし
 又大兵団の運用を妨げる半年の嚴冬季の間合を置くことも出来るであ
 らう

第二款 作戰方向及要線

其の一 南北方面

一防者は本地域及ウスリイ方面に一正面軍を充當し開戦後頭先づアメ
 リカ湾、浦鹽、ボシエツト、雄基、羅津、清津等一連の港湾附近の
 要地の堅固な数帯の海岸防禦陣地帯一註／＼を編成し強大な打撃兵

力を交通及出撃の容易な障春、圖們附近、ウオロシロフ、吉林、牡丹江附近に保持して適時上陸軍を海岸に近く擧滅することを圖るであらう

0590

若し防者が上陸軍を海岸附近に於て擧滅し得ず攻者の地歩を獲得させた場合に於ても攻者が上陸根拠地を未だ十分に設定し得ない時機に乘じ國往線及び京圖線の兩方面から外線作戦の利を收めつつ決戦を企圖することもあるであらうが又有力な一兵団をそれぞれウスリ線及京圖線方面に作戦せしめ正面軍の主力を國往線に沿ふ地区に保持しつつハバロフスク市を中心とする方向に其の背後連絡線を保持し極力持久を策しつつ一註一適時南部ウスリ又は京圖線方面に攻勢を取つて進入軍の擧滅と東滿及ウスリに根拠地保持の二大目的を達成することもあるであらう一註二

一註一ノ戰時予定する陣地帯中の要點には平時から永久的施設を準備するであらう特に司令トチカと彈藥格納洞窟設備は

行つて置く公算が多い

2. 此の場合遠くアムール河下流方面の作戦と関聯を持つ場合があるであろう

3. 本作戦のため攻者はハルビン、ハバロフスク、コムソモリスク等防者策源の制壓を緊要とする

三 作戦要線 一点一

旧関東軍が東滿當時ソ軍が之に対抗して施設した南部ウスリト地区の西面、西北面、若くは西南面する数帯の縦深のトチカ陣地と日本軍が築設した国境諸陣地一註一及之に連繋する数多い自動車道は本地域に作戦する兩軍に重大な戦略戰術的價值を發揮するのであるが又これ等の築造物に拘らず左記の諸線一点一は地形上から戰略戰術的價值のあることは見逃せない一附圖第八参照一

1. 延吉一北荒溝嶺西南麓の線

2. 土門子一ガモ一ワ岬の線

3. 鏡泊湖北端、東京城南側高地の線
4. 適道、林口北方高地の線
5. 蒼河附近南北の線
6. 拉法附近南北の線
7. 高嶺子附近浜綏線の鞍部
8. 代馬溝附近浜綏線の鞍部
9. 興雪線上、北荒溝嶺の鞍部
10. 樺樹林子及撫松附近
11. 十九号及二十号界標附近の高地

一註一 璋春、土門子、東寧、綏芬河、半截河、廟嶺及これ等永久築城に添加せられた半永久の国境陣地

従つて攻者の作戦段階は附圖第九の如く概ね三段階となるであろうが第一段階へ進出後なるべく速かに十分な準備を整え一舉迅速に第二段階迄進出し得ることに重点を置くべきである

三 作戰軍の編成、裝備及訓練上の著想

本地域は前款挿圖に示す如く幅約四十軒長さ約三百軒のバンド状長隘路が大密林に蔽はれた二大山脈の間にある為正面戦斗に陥り易く持久性が大であるから作戰成果は一軍隊の保有する連続行動能力に依るので大勝は大密林山地一註ノ一を踏破し得る力と長隘路を縦深く迅速に強行突破し得る力を有する側に歸するであろう従つて本地域の作戰軍には特種の編成、裝備、訓練を施した山地師団一註二一を加え又平地方面を担当する兵団には特に有力な機甲及航空部隊の緊密な協力（空中補給を含む）と河湖濕地をも迅速に渡過するに適する資材並に防疫給水部の配屬を必要とするであろう

第一線兵団には野戦用ケーブルカーを携行せしめ断崖、溪谷、濕地等を横断して弾薬、糧食等の運搬に資することが補給上有利である又僅小な橋梁の破壊を事前に防ぐ為空中及地上の挺進部隊の派遣を怠つてはならない大密林に蔽はれた山地を有力な兵団を以て踏破す

五
六

る為新考案の一例を示せば次の通りである

即ち南北に縦走する山脈の適當な稜線を選んで其の上の多數の強力を燒夷彈投下を行つて立木や倒木の小さいのを燒き払い一註ふ一之の廣接してカタピラ附伐開機一註ふ一を以て大木の立木や倒木を切斷伐開する本作業に適する稜線の一例は附圖第十の如くである

一註一 〆 密林地帯は嘗て人手にかかつたことの無い大自然林で自然枯死の大倒木や直径0.5米乃至10米の大きな立木が數米間隔に並び立つ間に小樹枝が密生していて軍隊の通過は至難であるが全地域悉く左様ではなく燒け跡や伐木の跡などもあり山の薄い部分には燒却せずとも戦車のみで壓倒して進路を開拓出来る部分もある

一九四二年秋在滿20A司令官統裁の下に林口^{20B}と戦車旅団を以て山地突破演習を龍爪溝嶺で実施した際戦車旅団は約一日を以て約三十五軒の密林山地を独力踏破して一輛

の故障車も出さなかつたので車司令官から表彰された事
実がある。

一 一般経装備部隊の外に連絡捜索隊を専任する密林中隊、山地
未經験部隊の指導幹部要員からなる山地指導中隊、害虫
飲み本、負傷者の処置を十分に行い得る山地衛生中隊を
有すること

○ 當ての滿洲國は植林よりも山火事防止を第一義とした程
で北滿は一般に湿度が低い為其の森林は燃え易く非結
氷率も北滿の上空を飛行すれば到る所で山火事を見るで
あろう。

一九三九年十八号、十九号、二十号界隈附近約三十五軒
の正面で三日間ソ領内森林草地などの火災を起しトチ
カ數十箇、鉄条網杭、地上の彈藥糧秣庫など多数類焼し
トチカの内約三分二は木骨土製トチカであることを

暴露した事実がある。

タカタピラ附動力伐開機は既に旧日本軍で試作し北滿で試験したことがあるか新しい設備するとせば一層強力なものが必要であろう。

其の二 東西方向一附圖第十一参照一

旧國東軍時代の本地域日ソ間の戦略態勢を基礎として攻者が南部ウズリ地方から二十号界標以南の地区を経て牡丹江方面の西面進攻する場合を想定して之を述べれば

一攻者の進路、兵力及其の躍進目標等強大な強行突破威力（PK FM A等）を伴ふ七箇師団内外より成る一軍をポルタフカ南北の台上に展開し旧東寧第一邊境守備隊の四地区を破壊若くは強度の制壓を加えつつ突破すると同時に二十号界標附近の山地裝備を増強した一般師団の三乃至四箇より成る一軍を進め一帯の大嶺一決戦線上一と移接筒集嶺一羅子池の線に進出を圖り次で兵力重点を北に移して主力兵団を

浜線沿ふ地区より有力な一部兵団を興寧線沿ふ地区から各ト
 圖佳線の線に進出せしめ爾後南北兩軍相策応して牡丹江平地に在る
 防者を捕捉撃滅すること企圖し若し逸した場合に於ては速かに葦
 河、敦化の線に進出して東滿南部の要地を其の手中に収め斯くして
 琿春及北鮮東海岸の港灣に威を振い且南邵ウスリ地方の安泰を圖
 るのである。

右作戦と同時に興凱湖西北御地区から半截河、密山附近を経て滿道
 林口方面に有力な一兵団を進出せしめ牡丹江方面に向ふ主力軍の
 策応しつつ勃利附近の高地線を占領せしむることを圖るである。

一註一 圖上判断によれば東寧から小綏芬河谷、穆稜、窩集嶺、大
 石頭河谷を経て穆稜に進出するのは容易の様に見えるが
 一九三九年秋3A司令官統裁の8D 2D 對抗演習で2Dの此の地域
 を通過し穆稜から東寧に進出せしめた所快晴続きの天候にて
 あつたに拘らず附近の漁地に馬を陥没さして百数十頭を斃

死せしめ演習の一部を中止せしめた経験がある

又此の附近の山地には秋季局部的に豪雨がみられる為全く兵団の行動を不可能にすることがある一九三八年張鼓臺事件中心軍の行動を牽制する為チチハル^{14D}を此の附近に推進露營せしめた際一時的の豪雨に遭ひ全師団露營地を撤して山上に避難した事例がある又一九四二年秋の附近に僅か一日の豪雨がみられた為下流の八面道部落は全隊水没し穆稜鉄道橋脚一コンクリート製一は破壊し更に下流の虎林線鉄道築堤約千米を流失し^{20A}野戦倉庫を全隊水没した事例もあり本地区の一時的豪雨には特に警戒を要するものがある

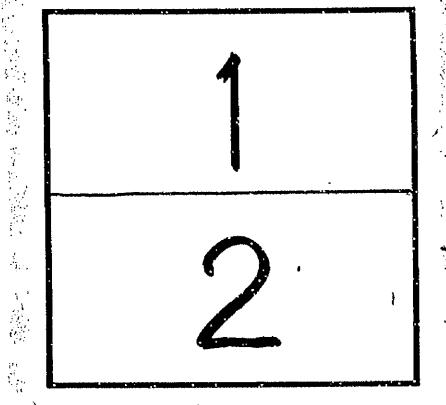
二 防者の陣地線及反撃方向等

概ね附圖第十一のような線と方向をとるのが有効であろう國境には予て施設した永久築城に専任守備隊が常置してあり一註一之を樞軸として戦略兵団が行動するに便利を数多の交通施設一一般地圖上には

省路一があるから此の平時の準備と施設を十分に活用する為にも又
 攻者の匪土を深く蹂躪ささない為にも努めて環境に近く第一線師団
 の反撃が行はれ第一線軍は之を有効適切ならしむる為あらゆる処置
 を講ずべきである。附圖第十一の第一期然し各種の關係上攻者の
 内部への進入を許さざるを得なかつた場合は移接以函の南北に
 亘る山地密林の障礙を利用し僅少な道路主として鉄道とにより自然
 附圖第十一の第二期、第三期の作戦に推移するであろう。

一 第一 国境守備隊常置の永久築城は約一箇月の持久に對する諸般
 の準備が完璧されている。

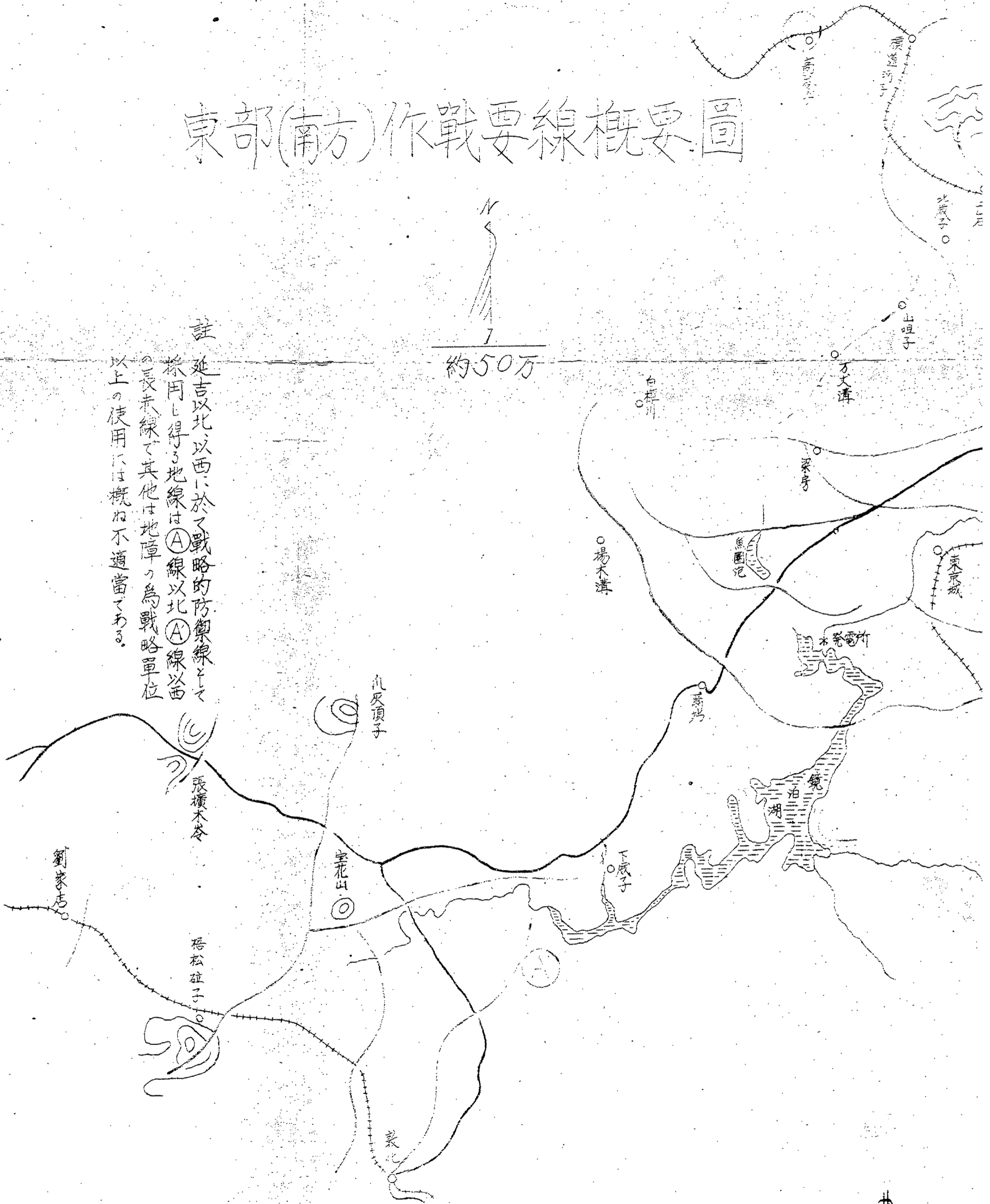
分割撮影ターゲット

| | |
|----------------------|---|
| 分割した部分の撮影順序 |  |
| 分割撮影した理由 | A3版以上のため |
| 文書等名 | 東部(南方)作戦要線概要図 |
| 上記のとおり分割撮影したことを証明する。 | |

東部(南方)作戰要線概要圖

註 延吉以北、以西に於て戰略的防禦線として採用し得る地線は(A)線以北、(A)線以西の長赤線で、其他は地障り爲戰略單位以上の使用には概ね不適當である。

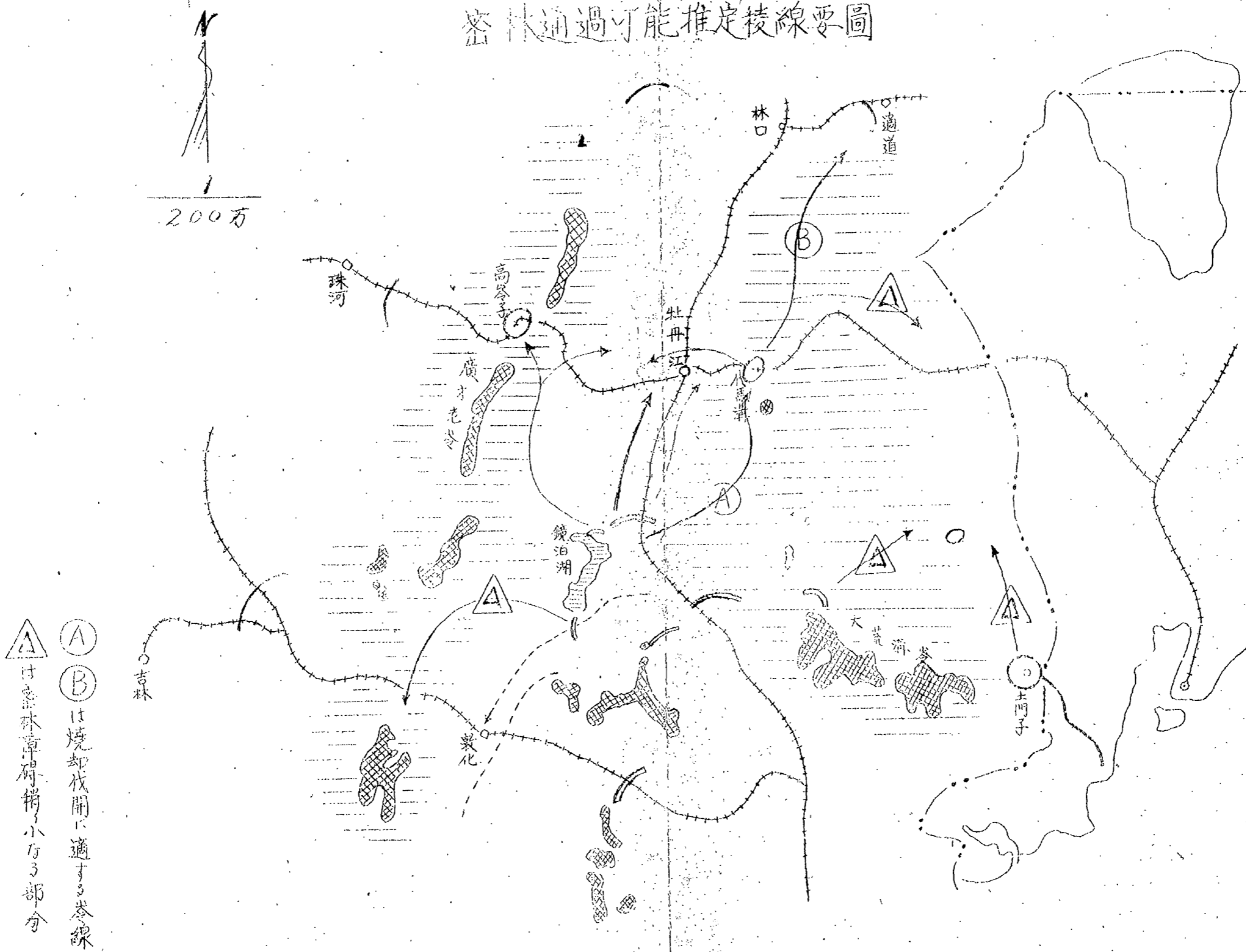
約50万



0301

密林通過可能推定稜線要圖

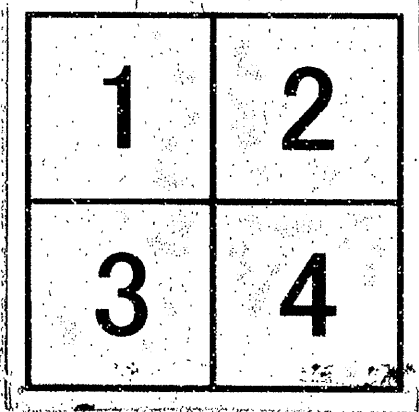
附圖第十



0603

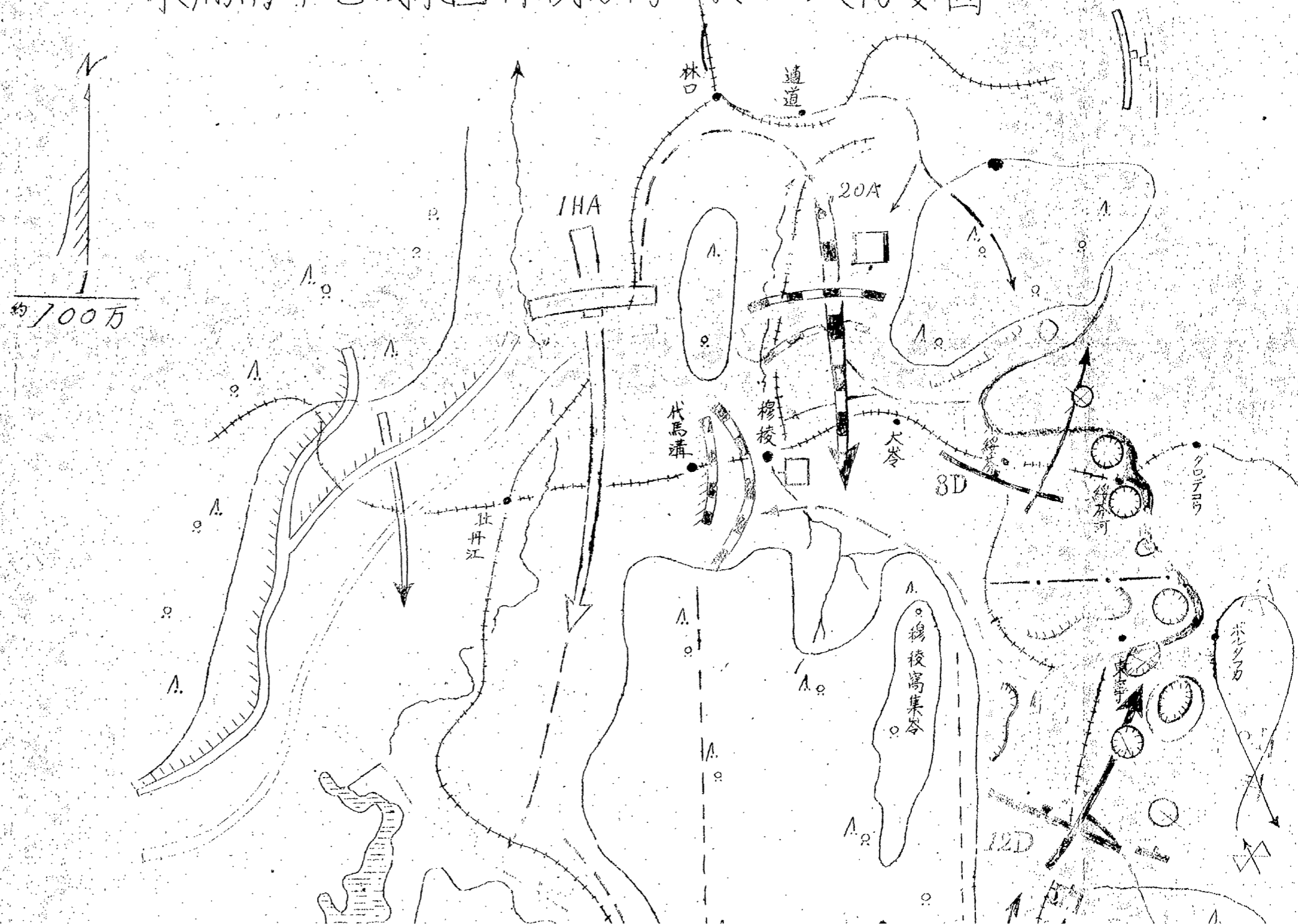
0304

分割撮影ターゲット

| | |
|--------------------------|---|
| 分割した 部 分 の 撮 影 順 序 |  |
| 分割撮影 した理由 | A 3版以上のため |
| 文書等名 | 東満南部地域東西作戦方向に於ける 攻防要図 |
| 上記のとおり分割撮影したことを証明する。 | |

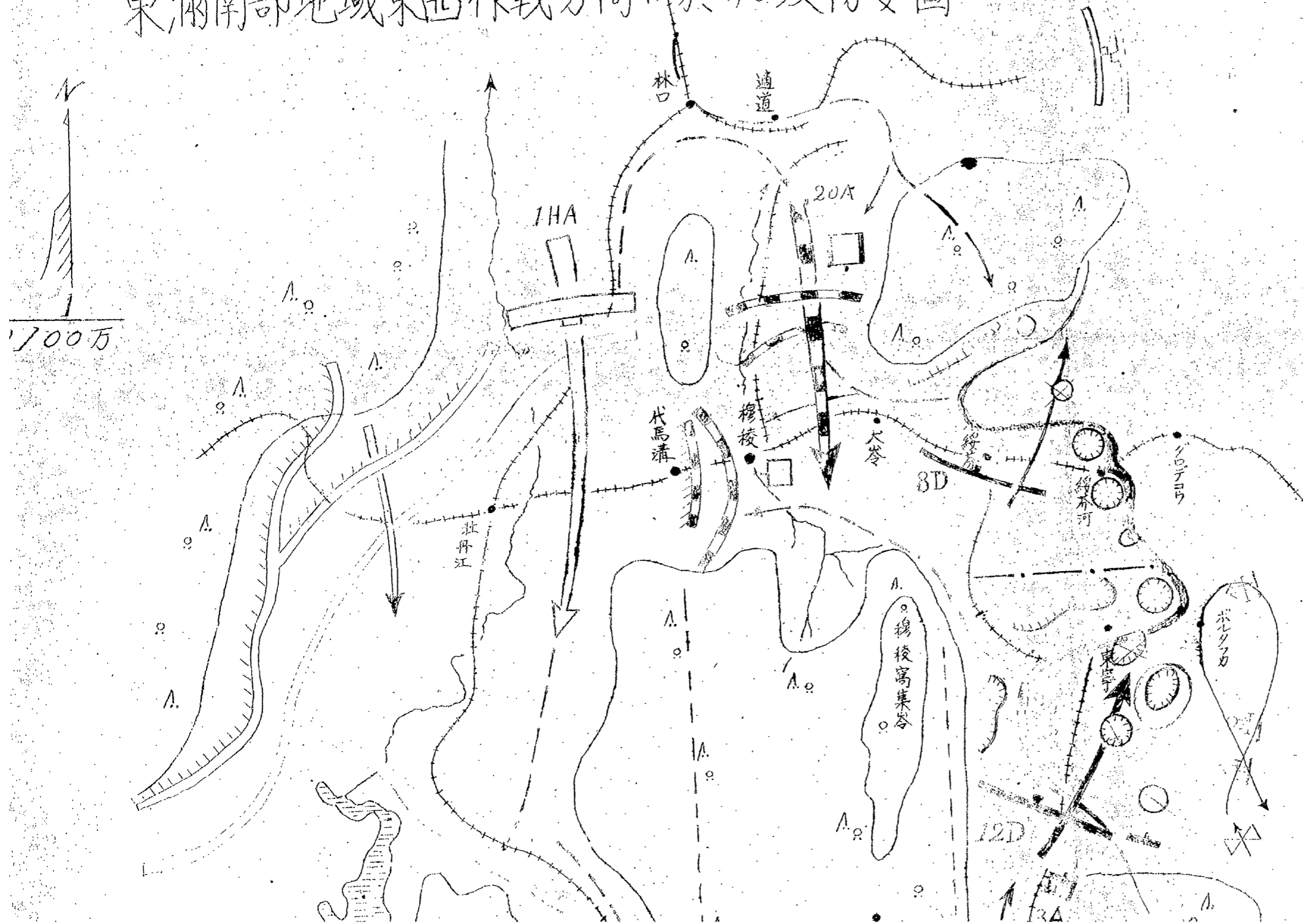
0604
0605
0606
0607

東滿南部地域東西作戦方向に於ける攻防要圖



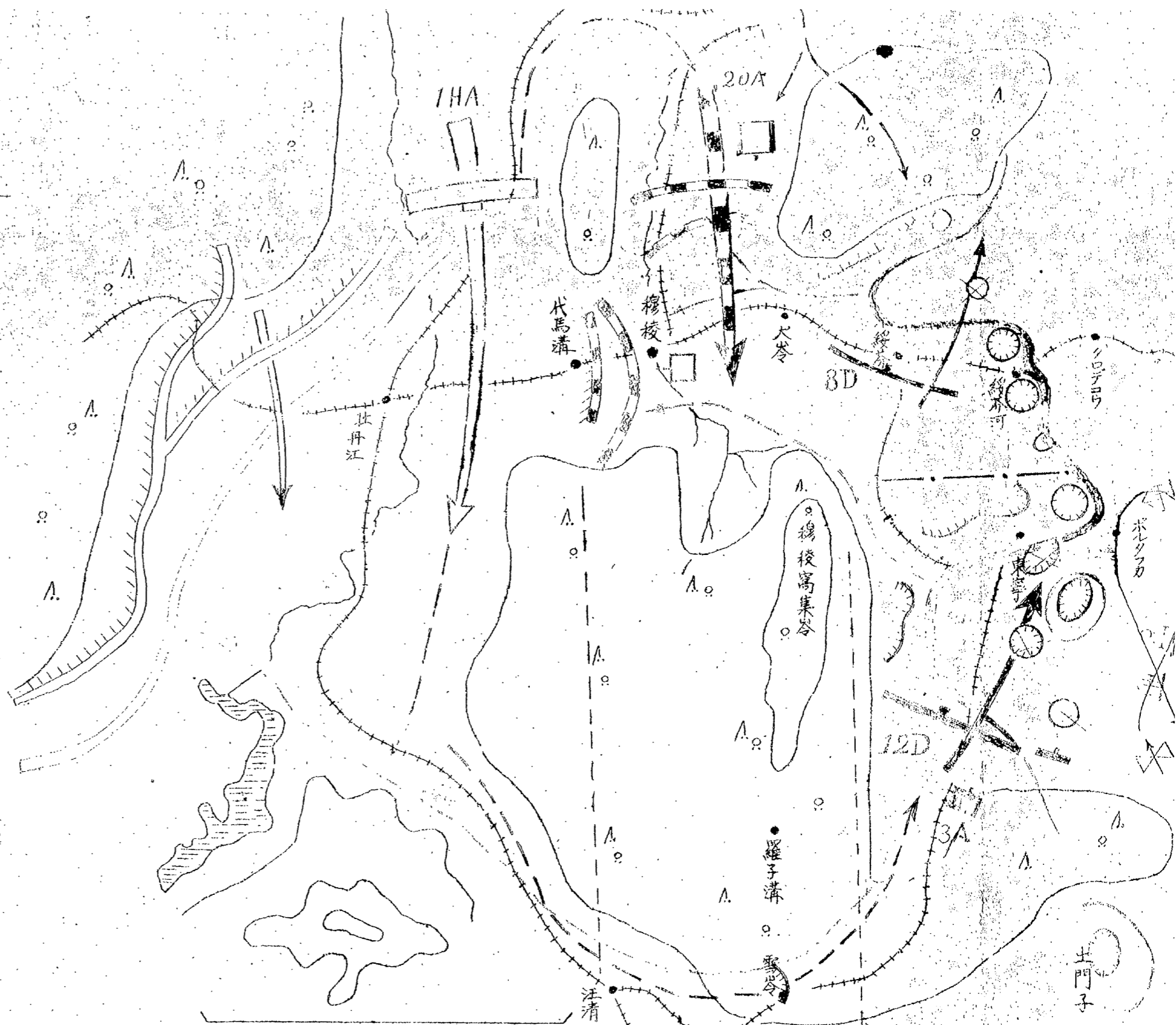
東滿南部地域東西作戰方向に於ける攻防要圖

附圖第十一



備註

約100万



第一線師団(8D)が國境守備隊の陣地を支持として行つた反撃用野戦陣地と反撃予定の方向

此反撃は最も重視するところにて第一線軍(3A)も亦本攻撃を有力な物としむようには其手持の兵団等も強す。

第二期

國境反撃の機を失つた場合は、臨時國境陣地を孤立せしめ此地帯で有力な兵刃を集中し一挙に決戦を行つた再國境回復すといふのである。

此際方面軍も此攻撃に協力す。

第三期

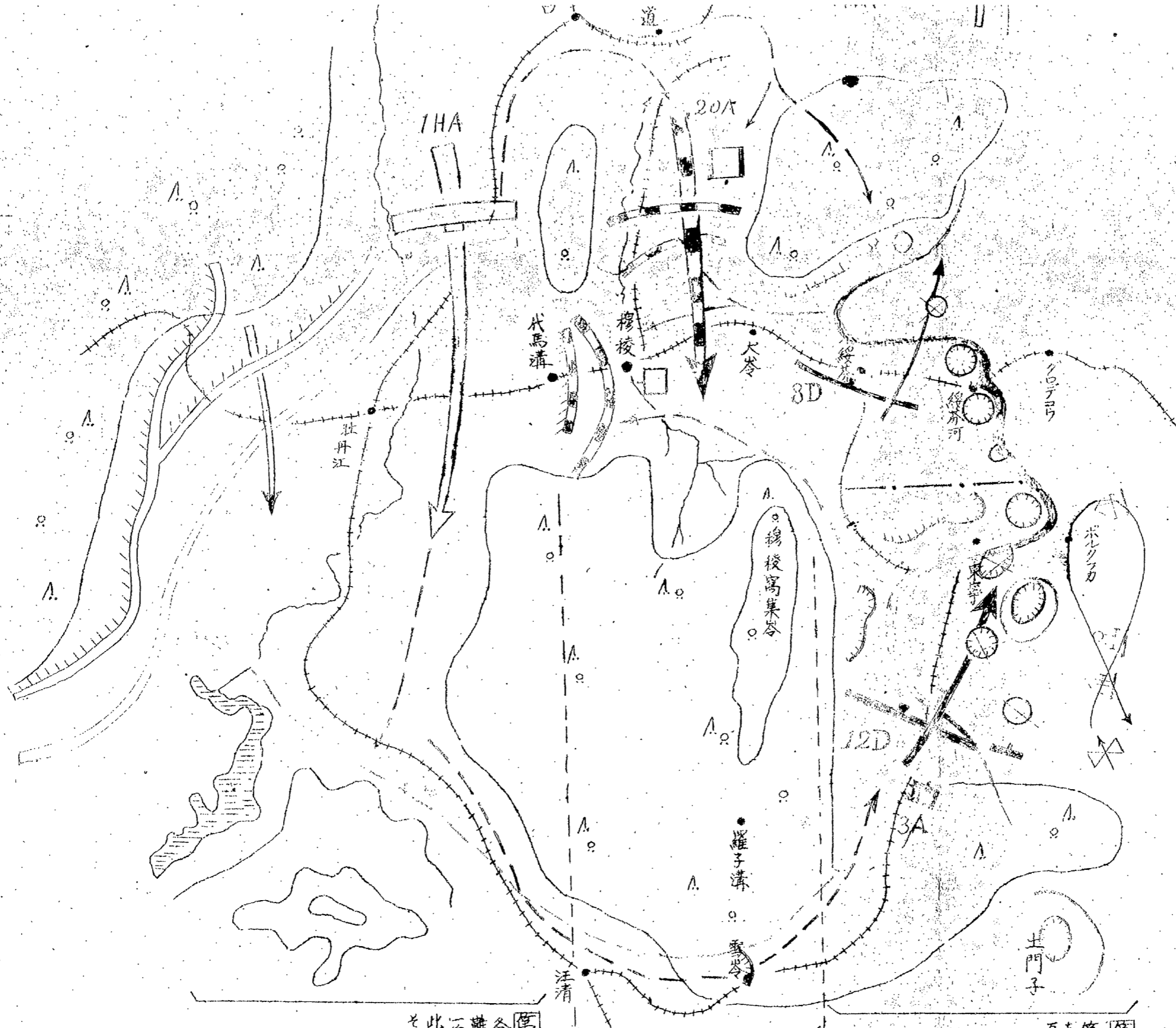
各種の關係上第三期の反撃の實施困難な場合にはその実行を断念し第一線軍及方面軍の諸力を結集して此地帯で決戦を敢行す。

その場合の予定陣地と一般攻撃力方向



0305

約100万



備考

○ 永久築城(國境守備隊常置)
 × 半永久築城(第一線師團が臨時増強する陣地)
 敵に奪取せられたものを現す

第一期

第一線師團(3D)が國境守備隊の陣地を支撐として行つた及軍用野戰陣地を及軍予定の方向
 此及軍は最も重視するところにて陣線軍(3A)も亦本攻軍を有力ならしむるよう其予持の兵団等も増強する

第二期

國境及軍の機を失した場合は一時國境陣地を孤立せしめ此地帯で有力な兵刃を集結し一挙に決戦を行つた再國境を回復するに努める
 此際方面軍も此攻軍に協力す

第三期

各種關係上第三期の及軍の実施困難な場合にはその実行を断念し第一線軍及方面軍の諸力を結集して此地帯で決戦を敢行す
 その場合の予定陣地と一般攻勢方向